

瀬部小だより 1月号

平成17年1月12日



1 明けましておめでとうございます。

平成18年の年は開幕しました。学校はいよいよまとめの3学期を迎えました。年頭に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

人間のように進んだ動物であればあるほど、さまざまな環境の変化に対応できなければなりません。そのためには、生まれた時に出来上がっていない方がよいといえます。

赤ちゃんの時に完成してしまっていたら、それ以上の周りの変化には対応ができません。人間は25歳ぐらいまではずっと発達し続けるといえます。しかし、大人になるまでが長い人間は、その間に必要なしつけや社会のルールを学ばなければなりません。そのしつけやルールを学ばないで成長すると、人間の脳はうまく発達しないといえます。ですから、瀬部小学校では、学びの中で楽しい体験活動とともに苦しいことにも挑戦できる児童の育成に、学校は全力を上げて取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。



2 夢の16面雑巾(保護者からのメール)(原文のまま)

二年生の保護者です。新学期になるたびに学校へ持って行く雑巾について聞いていただきたい意見があります。

「伊藤家の食卓」で前回紹介された「何度も洗わずスイスイ拭ける雑巾のうらわざ」でスタッフが考えた「夢の16面雑巾」を親子で一緒に作って持たせる、と言うのが私の意見です。波縫いで一辺を縫うだけでとっても簡単で機能的なんです！一度HPを見て頂きたいです。

私もさっそく作って窓掃除してみました。とっても使いやすかったです。よろしくご考慮お願いします！

<学校の返信>

返事が遅くなりました。「夢の16面雑巾」の提案、早速調べました。確かに機能的だと思います。雑巾は、これといった規格があるわけではありません。様々なものがあって良いと思います。

便利になってきているこのご時世で、清掃美化を体験することが重要なのだと思います。今後ともに、子どもたちのためになる情報を、またお伝えください。



3 家庭教育講座平成 17 年 12 月 15 日(月)「子どものころ」講師：小倉 孝行 先生

「学校は、子どもを自立させるところである。自立とは、自分で考え、自分で行動することである。そして、自分で責任を取ることである。しかし、自分で考え、自分で行動す



ることができても、自分で責任を取ることができていない。それは、親が、「指示、命令、干渉」だけを繰り返して、十分受け入れてやらない(甘えさせてやらない)からだ。そして、たっぷり甘えられなかった子どもたちは、思春期のハードルを越えることができない。だれもが通らなければならない性の変化に立ち向かう力がない。とくに思春期は、人間だれもが感じる劣等感にさいなまれる。

その結果、幼年期の親の受容のなさと思春期における劣等感や性への歪んだ理解は、後々の社会問題となる

様々な事件を起こすきっかけとなりやすい。やはり、幼年期から思春期にかけて、受容感のある何でも相談できる温かく穏やかな家庭環境であることで、子どもが自立でき、自分自身をコントロールできる人間に成長する(趣意)と結論づけられました。ユーモアあふれる様々な体験を交えた語り口は分かりやすく、時間の立つのも忘れてしまいました。最後に、先生は地域に住んでいるので「何かあれば、声をかけてください。」と気さくに保護者に語りかけられました。

4 地域に見守りボランティアをお願い

現在瀬部小学校の登下校の見守りボランティア S B M B は、35 名の保護者の方(12



月 20 日現在)にご協力いただいております。

昨年 6 月 27 日に 15 名の S B M B を立ち上げて登下校の安全に配慮してまいりました。学校も担任を中心として、登下校指導をしておりますが、広い瀬部地域を十分に把握することは困難です。そこで、保護者による S B M B を一層充実させるとともに、地域の皆様をお願いする

ことになりました。17 年 12 月 20 日(火)19 時より瀬部小学校で、時之島、瀬部町内の関係者の方にお声をおかけして「瀬部小学校の登下校における安全確保」について話し合い、ご協力をお願いしました。その際、全地域にもお願いしてはどうかとのご意見をいただきました。今準備を進めているところです。真の「安全は、子ども自身が守るもの」の原則は変わりありませんが、学校と保護者、そして地域が手を取り合って、地域の宝である「瀬部の子」の安全を確保し合っていきたいと思ひます。